

**埼玉県生物多様性の保全に
配慮した緑化木選定基準**

(在来植物による緑化推進のために)

平成 18年 3月

埼玉県環境部みどり自然課

1 はじめに

(1) 在来種を使用した緑化の重要性

生物の種は、将来世代に伝えなければならない人類共通の資産としてかけがえのないものですが、現在地球上で多くの動物や植物が絶滅しつつあります。このようなことから、生物多様性の保全の必要性が叫ばれ、日本を含む各国の努力により生物多様性条約が発効し、この条約の精神に基づき、生物多様性国家戦略が策定されています。

生物多様性の保全とは、野生動植物が人間の生活や生産活動の影響を受けて絶滅したり、生息範囲を狭めたり減ったりしないように、それぞれの地域に固有な様々な生物全体を保全することです。

このような考え方を受け、緑化に用いられる樹木についても地域固有の自然環境を損なわないよう配慮が必要と考えられるようになってきました。平成15年6月には、「景観三法」の公布にあたり、国会で「地域在来の植物等の活用による緑化の推進に努めること」についての付帯決議があり、在来植物活用による緑化の推進は今や国の方針となっているのです。

埼玉県においても、自然環境と調和した県土づくりを推進するため、平成17年3月に生物多様性保全県戦略の第1弾として丘陵編を策定しました。この戦略の内容は、一般県民、企業・団体、地方公共団体などの多くの人々が生物多様性保全の取組に参加し、その活動の輪を広げることにより、保全を図ろうとするものです。生物多様性保全県戦略では、天然林や里山の保全や希少種の保護、外来種対策まで様々な保全のための取組を提案していますが、家庭をはじめ、公共施設、学校、事業所で行われている「緑化」についても、在来植物を用いて進めていくことが重要と考えています。

(2) 在来種を使用した緑化を推進するために

緑化木というと、その地域で見られない珍しいものを植えた方がよいという考え方や、見栄えがよい、病虫害に強く管理しやすいなどの理由で、これまで長い間外来種や移入種が多く植えられてきました。

外来種又は移入種による緑化には、生態系に様々な問題を引き起こす可能性がありますので、使えるところには出来るだけ在来植物を使うようにしていただきたいと考えております。

そのためには、様々な立場の方々が、「在来種を使用した緑化」の必要性を理解し、出来るところから取り組んでいただくことが重要です。

今後、国や地方公共団体ばかりではなく、県内の事業者や一般家庭においても、在来種による緑化を積極的に取り組んでいただくよう期待いたします。

ア 外来種又は移入種による緑化が生態系に引き起こす問題

- (ア) 緑化木の根に昆虫などの幼虫がついて移動し、本来の生息地ではない地域に生息するようになってきている例があり、本来の自然の姿を攪乱することがある。
- (イ) 外来種や移入種による緑地では、在来の昆虫が生活できなかつたり、逆に天敵がいないことなどから外来昆虫が蔓延する危険性もある。
- (ウ) 在来種であっても、他地域で生産されたものでは、遺伝的形質が異なる場合が多い。(ブナの例では、日本海側と太平洋側における積雪量の差による春季葉が開く時期の水分条件が異なることから、葉の大きさ等の遺伝的形質も異なるとされている。)
- (エ) 植栽した場所だけではなく、種子が鳥や風に運ばれて自然界に定着し、今まで生育していた種を駆逐したり、交雑による遺伝的特性を変えてしまうことなどにより、固有な生態系を変質させてしまうおそれのある種類(侵入的外来種)も多い。

(3) 生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準の作成

在来種を使用した緑化を推進するといっても、「何が在来種かわからない」、「何をどのような所に植えるのが適当かわからない」ということもあり、在来植物の使用はなかなか進んでいません。

今回作成した基準では、実際緑化に使用されている樹木はどのようなものがあるか、埼玉県の内来樹木はどのような種類があるか、在来樹木の種類ごとの植栽に適する環境等について明らかにしています。

地域固有の生物に対する悪影響を防止しようとする「生物多様性の保全」の見地から、どのような種を選ぶことが適当かを判断する基準として作成しました。

(4) 今後の課題

今後、在来種の緑化を推進していくためには、県緑化関係部局のそれぞれの事業分野で環境条件や必要な緑化木の性質等が異なるため、この基準を参考にしながら、各担当部局の事業特性を反映した「緑化指針」を作成していただくことが望ましいと考えます。

2 緑化木の種類

実際緑化に使用されている主な樹木を選び、それぞれの種を、在来種、移入種、外来種・園芸種に区分し明らかにしました。

(1) 在来種

埼玉県内で自生している種とする。ほとんど緑化や植林に使われていない種も含む

希少種や分布が極めて限定される種は、なるべく除外した。

(2) 移入種

国内に自生するが埼玉県内では自生していない種、中には森林内に定着しつつある種を含む。

(3) 外来種

国内に自生していない種とする。すでに、自然生態系内に定着している種も数多く、外来種といっても、モウソウチク、マダケ、ハチク、セイヨウハコヤナギ(ポプラ)、シダレヤナギなど、人里や都市景観の重要な構成要素になっている種類も少なくない。

(4) 園芸種

品種改良が行われている種であり、原種が外来種・移入種・在来種であるかは問わない。

(5) 侵入的外来種

植栽した場所だけではなく、種子が鳥や風に運ばれて自然界に定着し、今まで生育していた種を駆逐したり、近縁の在来種との交雑により地域の個体群の遺伝的特性を変えてしまうことなどにより、固有な生態系を変質させてしまうおそれのある種類をいう。

外国から入ってきた植物だけではなく、移入種で上記のような問題を引き起こす恐れのある植物を含む。

侵入的外来種に該当する種は「侵入的外来種」と表示した。

どの区分にすべきか判断に迷う種類及び、分布が限定されているため同系統の遺伝的特性を持つ苗木の確保が困難な種類等については、*マークを付し末尾に特記した。

緑化樹としてよく使われている在来植物には を付した

広葉樹

区 分	在 来 種	移 入 種	外来種・園芸種
落葉高木	(クルミ科) オニグルミ サワグルミ (ヤナギ科) ヤマナラシ アカメヤナギ タチヤナギ コゴメヤナギ (カバノキ科) ハンノキ ヤマハンノキ ウダイカンバ ミズメ シラカンバ ヤシャブシ アサダ サワシバ クマシデ イヌシデ アカシデ (ブナ科) * ブナ * イヌブナ ミズナラ コナラ クリ	(ブナ科) アベマキ カシワ * クヌギ	(クルミ科) テウチグルミ (ヤナギ科) ギンドロ セイヨウハコヤナギ シダレヤナギ ウンリュウヤナギ (マンサク科) フウ モミジバフウ (トチュウ科) トチュウ (ブナ科) ピンオーク

区 分	在 来 種	移 入 種	外来種・園芸種
落葉高木	(ニレ科) ムクノキ エゾエノキ エノキ ケヤキ * ハルニレ * オヒョウ (モクレン科) ホオノキ コブシ (フサザクラ科) フサザクラ (カツラ科) カツラ (バラ科) ヤマザクラ ウワミズザクラ イヌザクラ * オオヤマザクラ * ヤマナシ (マメ科) ネムノキ イヌエンジュ (ミカン科) カラスザンショウ キハダ (カエデ科) イロハモミジ コミネカエデ イタヤカエデ (トチノキ科) トチノキ	(ニレ科) アキニレ (バラ科) オオシマザクラ (侵入的外来種) (イイギリ科) イイギリ (カエデ科) ハナノキ	 (モクレン科) ユリノキ (ウルシ科) カイノキ ニワウルシ(侵入的外来種) (トウダイグサ科) アブラギリ類 ナンキンハゼ (マメ科) サイカチ ハリエンジュ(侵入的外来種) キササゲ (カエデ科) トウカエデ (トチノキ科) セイヨウトチノキ

区 分	在 来 種	移 入 種	外来種・園芸種
落葉高木	(シナノキ科) シナノキ (ミズキ科) ミズキ (ウコギ科) ハリギリ (エゴノキ科) ハクウンボク オオバアサガラ (モクセイ科) *シオジ (ゴマノハグサ科) *キリ	 (モクセイ科) ヤチダモ トネリコ (ツバキ科) ヒメシャラ	(シナノキ科) ボダイジュ (ハスノハギリ科) ハスノハギリ (スズカケノキ科) スズカケノキ (アオギリ科) アオギリ (センダン科) センダン (ムクロジ科) モクゲンジ ムクロジ (カキノキ科) *カキ *マメガキ (クワ科) *ヤマグワ
常緑高木	 (ブナ科) ツクバネガシ アラカシ ウラジロガシ シラカシ スダジイ アカガシ (クスノキ科) ヤブニッケイ	(ヤマモモ科) ヤマモモ (ブナ科) *イチイガシ ツブラジイ マテバシイ (トウダイグサ科) エゾユズリハ (クスノキ科) クスノキ タブノキ カゴノキ	(モクレン科) タイサンボク (マメ科) エンジュ (クスノキ科) ニッケイ

区 分	在 来 種	移 入 種	外来種・園芸種
常緑高木		(ツバキ科) モッコク サカキ (モチノキ科) タラヨウ	(アカシア科) ギンヨウアカシア フサアカシア (ユーカリ科) ユーカリ類
落葉中高木	(カバノキ科) *オノオレカンバ (ツバキ科) ナツツバキ (トウダイグサ科) アカメガシワ (ニガキ科) ニガキ (ウルシ科) ヌルデ (ミツバウツギ科) ゴンズイ (ミズキ科) ヤマボウシ (ウコギ科) コシアブラ (リョウブ科) リョウブ (バラ科) ズミ アズキナシ ナナカマド (マメ科) フジキ (エゴノキ科) エゴノキ (モクセイ科) アオダモ	(カバノキ科) *ヒメヤシャブシ	(モクレン科) ハクモクレン モクレン (トウダイグサ科) オオバベニガシワ (クロウメモドキ科) ナツメ (ミズキ科) サンシュ アメリカハナミズキ (ポーポー科) ポーポー (バラ科) カリン マルメロ リンゴ セイヨウミザクラ ウメ モモ スモモ アンズ

区 分	在 来 種	移 入 種	外来種・園芸種
落葉中高木	(カエデ科) メグスリノキ (モチノキ科) アオハダ		(ミソハギ科) サルスベリ
常緑中高木	(クスノキ科) シロダモ (ツバキ科) ヤブツバキ (モクセイ科) ヒイラギ ネズミモチ (ツゲ科) ツゲ	(ブナ科) ウバメガシ (ツバキ科) サザンカ (モチノキ科) クロガネモチ モチノキ (スイカズラ科) サンゴジュ (トベラ科) トベラ (バラ科) カナメモチ	(モクセイ科) キンモクセイ ギンモクセイ ヒイラギモクセイ トウネズミモチ (侵入的外来種) (モチノキ科) セイヨウヒイラギ (キョウチクトウ科) キョウチクトウ
落葉低木	(ヤナギ科) ネコヤナギ カワヤナギ (カバノキ科) ツノハシバミ (クワ科) カジノキ コウゾ	(モクレン科) オオヤマレンゲ シデコブシ タムシバ	

区 分	在 来 種	移 入 種	外来種・園芸種
落葉低木	(ナス科) クコ (クスノキ科) クロモジ アブラチャン ヤマコウバシ ダンコウバイ (メギ科) メギ (マンサク科) マンサク (ユキノシタ科) タマアジサイ コアジサイ ノリウツギ マルバウツギ ウツギ (バラ科) コゴメウツギ ヤマブキ モミジイチゴ クマイチゴ カマツカ クサボケ ユキヤナギ シモツケ (ミカン科) コクサギ サンショウ イヌザンショウ	 (マンサク科) ヒュウガミズキ トサミズキ (ユキノシタ科) ヤブサンザシ スグリ (バラ科) シロヤマブキ カジイチゴ	 (ユキノシタ科) オオデマリ コデマリ (バラ科) ボケ ヒメリンゴ ハナカイドウ ユスラウメ

区 分	在 来 種	移 入 種	外来種・園芸種
落葉低木	(モチノキ科) ウメモドキ (ニシキギ科) コマユミ ニシキギ マユミ (ミツバウツギ科) ミツバウツギ (クマヤナギ科) クマヤナギ (グミ科) ナツグミ (キブシ科) キブシ (ミズキ科) ハナイカダ (ウコギ科) タラノキ オカウコギ ヤマウコギ (ツツジ科) ネジキ ミツバツツジ サラサドウダン ヤマツツジ レンゲツツジ (ハイノキ科) サワフタギ (モクセイ科) ハシドイ イボタノキ (マメ科) キハギ	(ツツジ科) ヨウラクツツジ ドウダンツツジ	(ツツジ科) ブルーベリー (モクセイ科) ライラック シナレンギョウ チョウセンレンギョウ

区 分	在 来 種	移 入 種	外来種・園芸種
落葉低木	(クマツヅラ科) クサギ ムラサキシキブ (スイカズラ科) ニシキウツギ ガマズミ ニワトコ オオカメノキ オトコヨウゾメ コバノガマズミ ウグイスカグラ	(クマツヅラ科) コムラサキ (スイカズラ科) ハコネウツギ タニウツギ	
常緑低木	 (ミカン科) ミヤマシキミ (モチノキ科) ソヨゴ イヌツゲ (ミズキ科) アオキ (ツツジ科) アセビ	(シキミ科) シキミ (ニシキギ科) マサキ (ウコギ科) ヤツデ(侵入的外 来種) カクレミノ(侵入的 外来種) (センリョウ科) センリョウ	(マンサク科) トキワマンサク (メギ科) ナンテン ヒイラギナンテン ホソバヒイラギナ ンテン (ツバキ科) チャノキ (ミカン科) カラタチ (ツゲ科) ヒメツゲ (ジンチョウゲ科) ジンチョウゲ (スイカズラ科) ハナヅノツクバネウツギ (ツツジ科) ツツジ類園芸品種 西洋シャクナゲ カルミア

区 分	在 来 種	移 入 種	外来種・園芸種
常緑低木	(ヤブコウジ科) ヤブコウジ	(バラ科) シャリンバイ(侵入的外来種)	(アカネ科) クチナシ (バラ科) ピラカンサ(侵入的外来種) トキワサンザシ (ヤブコウジ科) マンリョウ (オトギリソウ科) ビョウヤナギ
落葉つる性	(アケビ科) アケビ ミツバアケビ (マタタビ科) サルナシ マタタビ (ユキノシタ科) イワガラミ ツルアジサイ (バラ科) ノイバラ (マメ科) ヤマフジ (ニシキギ科) ツルウメモドキ (ブドウ科) ヤマブドウ エビヅル ツタ (スイカズラ科) スイカズラ		(マタタビ科) キウイフルーツ (侵入的外来種) (ノウゼンカヅラ科) ノウゼンカヅラ (マメ科) フジ

区 分	在 来 種	移 入 種	外来種・園芸種
常緑つる性	(ニシキギ科) ツルマサキ (グミ科) ツルグミ (ウコギ科) キヅタ (トウチク科) テイカカズラ (マツブサ科) サネカズラ		(アケビ科) ムベ (ウコギ科) セイヨウキズタ
ササ・タケ類・ヤシ類	(イネ科) アズマネザサ メダケ ミヤコザサ スズタケ	(イネ科) クマザサ ヤダケ オカメザサ (侵入的外来種) (ヤシ科) シュロ (侵入的外来種)	(イネ科) モウソウチク (侵入的外来種) マダケ (侵入的外来種) ホテイチク ハチク (ヤシ科) トウジュロ (侵入的外来種)

針葉樹

区分	在来種	移入種	外来種
落葉高木	(マツ科) * カラマツ		(イチヨウ科) イチヨウ (スギ科) メタセコイヤ ラクウショウ
常緑高木	(マツ科) アカマツ モミ * ゴヨウマツ ウラジロモミ ツガ (コウヤマキ科) * コウヤマキ (スギ科) スギ (ヒノキ科) ヒノキ サワラ * アスナロ * ネズコ (イヌガヤ科) イヌガヤ (イチイ科) * イチイ カヤ	(マツ科) クロマツ エゾマツ アカエゾマツ (マキ科) イヌマキ ナギ (ヒノキ科) カイズカイブキ	(マツ科) テーダマツ ストロブマツ ダイオウショウ ハクショウ ドイツトウヒ ギンヨウトウヒ ヒマラヤスギ (スギ科) コウヨウザン (ヒノキ科) ニオイヒバ コノテガシワ ヒヨクヒバ ヒムロ チャボヒバ イタリアサイプレ ス ゴールドクレスト
常緑中高木	(ヒノキ科) ネズミサシ		(ヒノキ科) コノテガシワ
常緑低木		(イチイ科) キャラボク (ヒノキ科) ミヤマビャクシン ハイビャクシン ハイネズ	

[在来種]

- * シオジ 天然分布は秩父山地方面に限定されている。
- * ヤマナシ 栽培起源の可能性はあるが、山地森林内で広く自生状態で生育している。
- * キリ 栽培起源の可能性はあるが、山地森林内で広く自生状態で生育している。
- * ブナ 天然分布は秩父山地方面に限定されている。
- * イヌブナ 天然分布は秩父山地方面に限定されている。
- * ハルニレ 天然分布は秩父山地方面に限定されている。
- * オヒョウ 天然分布は秩父山地方面に限定されている。
- * オノオレカンバ 天然分布は秩父山地方面に限定されている。
- * ゴヨウマツ 天然分布は秩父山地方面に限定されている。
- * カラマツ 天然分布は秩父山地方面に限定されている。
- * コウヤマキ 天然分布は秩父山地方面に限定されている。
- * イチイ 天然分布は秩父山地方面に限定されている。
- * アスナロ 天然分布は秩父山地方面に限定されている。
- * ネズコ 天然分布は秩父山地方面に限定されている。

[移入種]

- * クヌギ 県内台地丘陵部で広く分布するが、埼玉県植物誌に「県内では植林が多い」との記述があり、山地の天然林にはほとんど見られない。
- * イチイガシ 人家周りに植栽されたものが起源の可能性が高い。
- * ヒメヤシャブシ 治山工事等で多く植栽されている。

[外来種]

- * カキ 自生状態のものも多いが、栽培起源の可能性が高い。
- * マメガキ 自生状態のものも多いが、栽培起源の可能性が高い。
- * ヤマグワ 自生状態のものも多いが、栽培起源の可能性が高い。

3 緑化木選定基準

(1) 落葉樹

落葉高木

種 名	低地・台地 標高100m程 度まで	丘陵・低山 標高500m以 下	山 地 標高500m～ 1000m	備 考
(クルミ科) オニグルミ サワグルミ				
(ヤナギ科) ヤマナラシ アカメヤナギ タチヤナギ コゴメヤナギ				
(カバノキ科) ハンノキ ヤマハンノキ ウダイカンバ ミズメ シラカンバ ヤシャブシ アサダ サワシバ クマシデ イヌシデ アカシデ				
(ブナ科) *ブナ *イヌブナ ミズナラ コナラ クリ				

落葉高木

種 名	低地・台地 標高100m程 度まで	丘陵・低山 標高500m以 下	山 地 標高500m～ 1000m	備 考
(ニレ科) ムクノキ エゾエノキ エノキ ケヤキ * ハルニレ * オヒョウ (モクレン科) ホオノキ コブシ (フサザクラ科) フサザクラ (カツラ科) カツラ (バラ科) ヤマザクラ ウワミズザクラ イヌザクラ * オオヤマザクラ * ヤマナシ (マメ科) ネムノキ イヌエンジュ (ミカン科) カラスザンショウ キハダ (カエデ科) イロハモミジ コミネカエデ イタヤカエデ				

落葉高木

種 名	低地・台地 標高100m程 度まで	丘陵・低山 標高500m以 下	山 地 標高500m～ 1000m	備 考
(トチノキ科) トチノキ				
(シナノキ科) シナノキ				
(ミズキ科) ミズキ				
(ウコギ科) ハリギリ				
(エゴノキ科) ハクウンボク オオバアサガラ				
(モクセイ科) * シオジ				
(ゴマノハグサ科) * キリ				

落葉中高木

種 名	低地・台地 標高100m程 度まで	丘陵・低山 標高500m以 下	山 地 標高500m～ 1000m	備 考
(カバノキ科) * オノオレカンバ				
(ツバキ科) ナツツバキ				
(トウダイグサ科) アカメガシワ				
(ニガキ科) ニガキ				
(ウルシ科) ヌルデ				
(ミツバウツギ科) ゴンズイ				
(ミズキ科) ヤマボウシ				
(ウコギ科) コシアブラ				
(リョウブ科) リョウブ				
(バラ科) ズミ アズキナシ ナナカマド				
(マメ科) フジキ				
(エゴノキ科) エゴノキ				
(モクセイ科) アオダモ				
(カエデ科) メグスリノキ				
(モチノキ科) アオハダ				

落葉低木

種 名	低地・台地 標高100m程 度まで	丘陵・低山 標高500m以 下	山 地 標高500m～ 1000m	備 考
(ヤナギ科) ネコヤナギ カワヤナギ (カバノキ科) ツノハシバミ (クワ科) カジノキ コウゾ (ナス科) クコ (クスノキ科) クロモジ アブラチャン ヤマコウバシ ダンコウバイ (メギ科) メギ (マンサク科) マンサク (ユキノシタ科) タマアジサイ コアジサイ ノリウツギ マルバウツギ ウツギ (バラ科) コゴメウツギ ヤマブキ モミジイチゴ クマイチゴ				

落葉低木

種 名	低地・台地 標高100m程 度まで	丘陵・低山 標高500m以 下	山 地 標高500m～ 1000m	備 考
(バラ科) カマツカ クサボケ ユキヤナギ シモツケ (ミカン科) コクサギ サンショウ イヌザンショウ (モチノキ科) ウメモドキ (ニシキギ科) コマユミ ニシキギ マユミ (ミツバウツギ科) ミツバウツギ (クロウメモドキ科) クマヤナギ (グミ科) ナツグミ (キブシ科) キブシ (ミズキ科) ハナイカダ (ウコギ科) タラノキ オカウコギ ヤマウコギ				

落葉低木

種 名	低地・台地 標高100m程 度まで	丘陵・低山 標高500m以 下	山 地 標高500m～ 1000m	備 考
(ツツジ科) ネジキ ミツバツツジ サラサドウダン ヤマツツジ レンゲツツジ (ハイノキ科) サワフタギ (モクセイ科) ハシドイ イボタノキ (クマツヅラ科) クサギ ムラサキシキブ (スイカズラ科) ニシキウツギ ガマズミ ニワトコ オオカメノキ オトコヨウゾメ コバノガマズミ ウグイスカグラ (マメ科) キハギ				

つる・ササ・タケ等

種名	低地・台地 標高100m程 度まで	丘陵・低山 標高500m以 下	山地 標高500m～ 1000m	備考
落葉つる性 (アケビ科) アケビ ミツバアケビ (マタタビ科) サルナシ マタタビ (ユキノシタ科) イワガラミ ツルアジサイ (バラ科) ノイバラ (マメ科) ヤマフジ (ニシキギ科) ツルウメモドキ (ブドウ科) ヤマブドウ エビヅル ツタ (スイカズラ科) スイカズラ				
ササ類・ タケ類 (イネ科) アズマネザサ メダケ ミヤコザサ スズタケ				

(2) 常緑樹

高木・中高木・低木

種 名	低地・台地 標高100m程 度まで	丘陵・低山 標高500m以 下	山 地 標高500m～ 1000m	備 考
常緑高木 (ブナ科) ツクバネガシ アラカシ ウラジログシ シラカシ スダジイ アカガシ (クスノキ科) ヤブニッケイ				
常緑中高木 (クスノキ科) シロダモ (ツバキ科) ヤブツバキ (モクセイ科) ヒイラギ ネズミモチ (ツゲ科) ツゲ				
常緑低木 (ミカン科) ミヤマシキミ (モチノキ科) ソヨゴ イヌツゲ (ミズキ科) アオキ				

低木・つる

種 名	低地・台地 標高100m程 度まで	丘陵・低山 標高500m以 下	山 地 標高500m～ 1000m	備 考
常緑低木 (ツツジ科) アセビ (ヤブコウジ科) ヤブコウジ				
常緑つる性 (ニシキギ科) ツルマサキ (グミ科) ツルグミ (ウコギ科) キツタ (キョウチクトウ科) テイカカズラ (マツブサ科) サネカズラ				

斜面の傾斜による暖地性常緑樹の生育可能地の標高目安

山地日向斜面 標高500m以下

山地日陰斜面 標高300m以下

山地寒風が当たる北西斜面の場合 標高200m 以下

秩父地域では、冬季の冷え込みが厳しいため、防寒対策に留意するとともに、標高目安も低めにして活用するなど慎重な対応が必要になる。

(3) 針葉樹

高木・中高木

種名	低地・台地 標高100m程 度まで	丘陵・低山 標高500m以 下	山地 標高500m～ 1000m	備考
落葉高木 (マツ科) *カラマツ				
常緑高木 (マツ科) アカマツ モミ *ゴヨウマツ ウラジロモミ ツガ (スギ科) スギ (コウヤマキ科) *コウヤマキ (ヒノキ科) ヒノキ サワラ *アスナロ *ネズコ (イヌガヤ科) イヌガヤ (イチイ科) *イチイ カヤ				
常緑中高木 (ヒノキ科) ネズミサシ				

4 緑化木確保にあたり留意すべき事項と今後の課題

- (1) 理想的には、植栽場所の近くで自生しているものから増殖した苗木を使い、地域個体群の遺伝子攪乱を防ぐ必要があるが、市場流通により確保することは事実上不可能なので、できるだけ本県産の自生木から増殖した苗木の確保に努める必要がある。
- (2) 本県産苗木の供給を確保するために、生産体制を整備する必要がある。
- (3) 山取苗木については、業者が自生地から根こそぎ採取してしまうなど、生物多様性の保全に支障をきたす場合があるので、使用については慎重に行う必要がある。

5 在来種の特性

花・紅葉については、鑑賞価値があるものに、木の实については、鑑賞価値があるものや、鳥や獣が好んで食べるものを目安に を付けた。

[広葉樹]

区分	樹種	樹種の特性						
		光条件	水分条件	耐寒性	花	木の实	紅葉	その他
落葉 高木	オニグルミ	陰	湿	中				種子食用
	サワグルミ	中	中	中				溪流沿いに生育
	ヤマナラシ	陽	湿	中				ポプラの近縁種
	アカメヤナギ	陽	湿	中				湿地植栽に適す
	タチヤナギ	陽	湿	中				湿地植栽に適す
	コゴメヤナギ	陽	湿	中				湿地植栽に適す
	ハンノキ	陽	湿	中				湿地植栽に適す
	ヤマハンノキ	陽	乾～ 湿	中				砂防樹種
	ウダイカンバ	陽	中	中				山地に生育
	ミズメ	陽	中	中				山地に生育
	シラカンバ	陽	中	高				山地に生育
	ヤシャブシ	陽	乾～	中				砂防樹種
	アサダ	中	中	高				山地に生育
	サワシバ	中	中	中				溪流沿いに生育
	クマシデ	中	中	中				雑木林の構成種
	イヌシデ	中	中	中				雑木林の構成種
	アカシデ	中	中	中				雑木林の構成種
	ブナ	陰	中	中				冷温帯の主要構成種
	イヌブナ	陰	中	中				山地に生育
	ミズナラ	中	中	高				冷温帯の主要構成種
	コナラ	陽	中	中				雑木林の構成種
	クリ	陽	中	中				種子食用
	ムクノキ	陽	中	中				実を鳥が好む
	エゾエノキ	中	中	中				実を鳥が好む
	エノキ	陽	湿	中				実を鳥が好む
	ケヤキ	陽	中	中				屋敷林に多い
	ハルニレ	陽	湿	高				湿地植栽に適す
	オヒョウ	中	中	高				奥山に生育

区分	樹種	樹種の特性						その他
		光条件	水分条件	耐寒性	花	木の实	紅葉	
落葉 高木	ホオノキ	中	中	中				山地に生育
	コブシ	中	中	中				花白色実を鳥が好む
	フサザクラ	陽	湿	中				溪流沿いに生育
	カツラ	陽	湿	中				雌雄異株
	ヤマザクラ	陽	中	中				花淡紅色実を鳥が好む
	ウワミズザクラ	陽	中	中				花白色実を鳥が好む
	イヌザクラ	陽	中	中				花白色実を鳥が好む
	オオヤマザクラ	陽	中	中				花淡紅色実を鳥が好む
	ヤマナシ	陽	中	中				とげあり
	ネムノキ	陽	湿	中				花淡紅色
	イヌエンジュ	陽	中	中				山地に生育
	カラスザンショウ	陽	中	中				とげあり
	キハダ	陽	中	中				樹皮を薬用とする
	イロハモミジ	陽	中	中				紅葉美しい
	コミネカエデ	陽	中	中				紅葉美しい
	イタヤカエデ	中	湿	中				溪流沿いに生育
	トチノキ	陰	湿	中				種子食用
	シナノキ	陽	中	中				山地に生育
	ミズキ	陽	中	中				花白色実を鳥が好む
	ハリギリ	陽	中	中				とげあり実を鳥が好む
ハクウンボク	陽	湿	中				花白色	
オオバアサガラ	陽	湿	中				溪流沿いに生育	
シオジ	陰	湿	中				雌雄異株	
キリ	陽	中	中				花紫色	
常緑 高木	ツクバネガシ	陰	中	低				神寺林に多い
	アラカシ	陰	中	低				神寺林に多い
	ウラジロガシ	陰	中	低				神寺林に多い
	シラカシ		中	低				屋敷林に多い
	スダジイ		中	低				種子食用
	アカガシ		中	低				神寺林に多い
	ヤブニッケイ		中	低				屋敷林に多い

区分	樹種	樹種の特性						その他
		光条件	水分条件	耐寒性	花	木の实	紅葉	
落葉 中高 木	オノオレカンバ	中	中	高				奥山に生育
	ナツツバキ	陽	中	中				花白色
	アカメガシワ	陽	乾～ 中	中				林縁に多い
	ニガキ	陽	中	中				林縁に多い
	ヌルデ	陽	乾～ 中	中				林縁に多い
	ゴンズイ	陽	中	中				実を鳥が好む
	ヤマボウシ	中	中	中				花白色実を鳥が好む
	コシアブラ	陽	中	中				山菜実を鳥が好む
	リョウブ	陽	乾～ 中	中				花白色
	ズミ	陽	中	中				とげあり実を鳥が好む
	フジキ	陽	中	中				山地に生育
	エゴノキ	陽	湿	中				湿地植栽に適す
	アオダモ	中	中	中				雌雄異株
	アズキナシ	中	中	中				花白色実を鳥が好む
ナナカマド	陽	中	高				実を鳥が好む	
メグスリノキ	陽	中	中				薬用	
アオハダ	陽	中	中				雌雄異株実を鳥が好む	
常緑 中高 木	シロダモ	陰	中	低				実を鳥が好む
	ヤブツバキ	陰	中	低				
	ヒイラギ	陰	中	低				雌雄異株
	ネズミモチ	陰	中	低				実を鳥が好む
	ツゲ	陰	乾	低				山地に生育
落葉 低木	ネコヤナギ	陽	湿	中				湿地植栽に適す
	カワヤナギ	陽	湿	中				湿地植栽に適す
	ツノハシバミ	陽	中	中				種子食用
	カジノキ	陽	中	中				実を鳥が好む
	コウゾ	陽	中	中				実を鳥が好む

区分	樹種	樹種の特性						
		光条件	水分条件	耐寒性	花	木の 実	紅葉	その他
落葉 低木	クコ	陽	中	中				実を鳥が好む
	クロモジ	陽	中	中				枝葉に芳香がある
	アブラチャン	陽	中	中				山地に生育
	ヤマコウバシ	陽	中	中				枝葉に芳香がある
	ダンコウバイ	陽	中	中				山地に生育
	メギ	陽	湿	中				とげあり
	マンサク	中	湿	中				山地に生育
	タマアジサイ	陰	湿	中				湿地植栽に適す
	コアジサイ	陽	中	中				花青紫色
	ノリウツギ	陽	中	中				花白色
	マルバウツギ	陽	乾	中				花白色
	ウツギ	陽	乾	中				花白色
	コゴメウツギ	中	中	中				花目立たない
	ヤマブキ	中	中	中				花黄色
	モミジイチゴ	中	中	中				とげあり
	クマイチゴ	陽	中	中				とげあり
	カマツカ	陽	中	中				花白色実を鳥が好む
	クサボケ	陽	乾	中				とげあり
	ユキヤナギ	陽	中	中				花白色
	シモツケ	陰	中	中				
	コクサギ	陰	中	中				全体が有毒
	サンショウ	陰	中	中				とげあり
	イヌザンショウ	中	中	中				とげあり
	ウメモドキ	陽	中	中				雌雄異株実を鳥が好む
	コマユミ	陽	中	中				雑木林に多い
	ニシキギ	陽	中	中				雑木林に多い
	マユミ	陽	湿	中				雑木林に多い
	ミツバウツギ	陽	中	中				山地に生育
	クマヤナギ	陽	中	中				雑木林に多い
	ナツグミ	陽	湿	中				とげあり
キブシ	陰	湿	中				溪流沿いに生育	
ハナイカダ	陽	乾	中				溪流沿いに生育	

区分	樹種	樹種の特 性						
		光条 件	水分 条件	耐寒 性	花	木の 実	紅葉	その他
落葉 低木	タラノキ	陽	乾	中				とげあり実を鳥が好む
	オカウコギ	陽	乾	中				平地・山地に生育
	ヤマウコギ	陽	乾	中				山地に生育
	ネジキ	陽	乾	中				花白色
	キハギ	陽	乾	中				花黄色
	ミツバツツジ	中	乾	高				花赤紫色
	サラサドウダン	陽	乾	中				花赤紫色
	ヤマツツジ	陽	中	中				橙赤色
	レンゲツツジ	陽	乾	中				全体が有毒橙赤色
	サワフタギ	陽	中	中				青い実が美しい
	ハシドイ	陽	乾	中				花白色
	イボタノキ	陽	中	中				花白色
	クサギ	陽	中	中				葉に悪臭あり
	ムラサキシキブ	中	中	中				実が薄紫色で美しい
	ニシキウツギ	中	中	中				赤・淡紅色
	ガマズミ	中	中	中				花白色実を鳥が好む
	ニワトコ	中	中	中				実を鳥が好む
オオカメノキ	中	中	中				花白色実を鳥が好む	
オトコヨウゾメ	中	中	中				実を鳥が好む	
コバノガマズミ	中	中	中				実を鳥が好む	
ウグイスカグラ	中	中	中				実を鳥が好む	
常緑 低木	ミヤマシキミ	陰	中	低				全体が有毒
	ソヨゴ	陰	中	低				雌雄異株実を鳥が好む
	イヌツゲ	陰	中	低				雌雄異株実を鳥が好む
	アオキ	陰	中	低				雌雄異株実を鳥が好む
	アセビ	陰	乾	低				全体が有毒花白色
	ヤブコウジ	陰	中	低				実を鳥が好む
	ヒサカキ	陰	中	低				実を鳥が好む
落葉 つる 性	アケビ	中	中	中				実を鳥が好む
	ミツバアケビ	中	中	中				実を鳥が好む
	サルナシ	陽	湿	中				雌雄異株実食用
	マタタビ	陽	湿	中				雌雄異株実食用

区分	樹種	樹種の特 性						
		光条 件	水分 条件	耐寒 性	花	木の 実	紅葉	その他
落葉 つる 性	イワガラミ	中	湿	中				湿地植栽に適す とげあり 湿地植栽に適す 実を鳥が好む 実食用 実食用 実を鳥が好む 湿地植栽に適す
	ツルアジサイ	中	湿	中				
	ノイバラ	陽	湿	中				
	ヤマフジ	陽	湿	中				
	ツルウメモドキ	陽	中	中				
	ヤマブドウ	陽	中	中				
	エビツル	陽	中	中				
	ツタ	陽	中	中				
スイカズラ	中	湿	中					
常緑 つる 性	ツルマサキ	中	中	低				実を鳥が好む
	ツルグミ	中	中	低				実を鳥が好む
	キツタ	中	中	低				実を鳥が好む
	テイカカズラ	中	中	低				
	サネカズラ	中	中	低				実を鳥が好む
ササ ・ タケ類	アズマネザサ	中	中	中				高さ3～4m
	メダケ	中	中	中				高さ5～6m
	ミヤコザサ	中	中	中				高さ0.5～1m
	スズタケ	中	中	中				高さ1.5～2m

[針葉樹]

区分	樹種	樹種の特 性						
		光条件	水分条件	耐寒性	花	木の实	紅葉	その他
落葉 高木	カラマツ	陽	乾	高				造林樹種
常緑 高木	アカマツ	陽	乾	中				造林樹種
	モミ	陰	中	中				葉の先端が鋭い
	ゴヨウマツ	中	中	中				奥山に生育
	ウラジロモミ	陰	中	高				奥山に生育
	ツガ	中	中	高				山地に生育
	スギ	中	中	中				造林樹種
	コウヤマキ	陰	中	中				奥山に生育
	カヤ	陰	中	中				雌雄異株 葉の先端が鋭い 実食用
	ヒノキ	中	中	中				造林樹種
	サワラ	中	中	中				造林樹種
	アスナロ	陰	中	中				奥山に生育
	ネズコ	陰	中	中				奥山に生育
	イヌガヤ	陰	中	中				雌雄異株
常緑 中高 木	ネズミサシ	中	乾	中				雌雄異株 葉の先端が鋭い
	イチイ	陰	中	高				雌雄異株 種子が有毒

6 参考文献

- 1 伊藤 洋、(1998)、埼玉県植物誌
- 2 宮脇 昭・奥田 重俊・望月 睦夫、(1978)、日本植物便覧、至文堂
- 3 茂木 透・石井 秀美・崎尾 均・吉山 寛ほか、(2001)、樹に咲く花離弁花 1
山溪ハンディ図鑑 3、山と溪谷社
- 4 茂木 透・太田 和夫・勝山 輝男・高橋 秀男ほか、(2001)、木に咲く花離弁花 2
山溪ハンディ図鑑 4、山と溪谷社
- 5 中川 重年(1994)、検索入門 針葉樹、保育社
- 6 佐竹 義輔・原 寛・亘理 俊次・富成 忠夫、(1993)フィールド版日本の野生植物
木本、平凡社
- 7 (社)林業改良普及協会、緑化技術ハンドブック